

THANKS

(VOL. 197)

BUSINESS NEWS LETTER

発行日：平成25年11月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-0043
埼玉県所沢市弥生町1792-10
TEL:04-2907-1715
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「四字熟語から学ぶ仕事における心構え⑫」

今、本誌では「四字熟語」を参考にしながら、私がコンサルティングを通して「こんなことが大事では・・・」と思うことを紹介しています。

題して、「四字熟語から学ぶ仕事における心構え」。
カルタ風に「あ」からスタートし、いよいよ大詰め。
今回は「む」で始まる熟語からです。

む：「無為徒食（むいとしょく）」

<意味>

日々、何をするでもなく、ただぶらぶらと無駄に過ごすこと。
価値のあることを何もせず、漫然と暮らすこと。

<使い方>

彼は、先代譲りの財産によって、無為徒食の生活を送っている。

先日、急遽仕事がキャンセルになり、1日ポツカリとスケジュールが空いてしまいました。さて、予定外のフリータイムをどうするか？
たまっていた仕事を片付けることを試みましたが、どうも気持ちが乗りません。
近くのスーパーに買い物に行ったら、焼酎の特売が目に入りました。
「よし、今日は、徹底的にグータラに過ごそう！」
そう決心しました。

家に帰って、まずは風呂へ。
そして、ケーブルテレビを見ながら、昼間から焼酎をグビグビ。
すっかりできあがっていました。
「あんた、昼間から何やっているの！」
女房の言葉を見殺して、ソファで昼寝です。

最近、休みの日でも、テニスをしたり、友人と会ったりバタバタしていました。
「せっかくの休みななのだから、何かしなくては・・・」
そんな強迫観念がありました。
ただし、これは私に限ったことではなく、日本人の特徴のようです。
海外のリゾート地では、外国人の方々は、非常にゆったりと過ごしています。
本を読んだり、昼寝をしたり・・・

一方で、日本人は、カメラ片手に早起きして出かけて、帰ってくるのも夜遅い。
「もったいない」
日本が誇る文化ですが、休みの時間についても、そういう気持ちが湧いてきます。

何事にもメリハリが必要です。
張りつめているばかりでは、いつか「プチッ」とキレてしまいます。
時には、敢えて「緩める」ことも大事でしょう。
上記のような無為徒食というのも良いものです。
私自身、正直言ってこれまで「徹底的にグータラに過ごすこと」について抵抗感がありましたが、かなり、ストレス解消になります。
癖になりそうな自分が怖いですが、たまにはやってみたいと思っています。
皆さんにもオススメします。

め：「面目一新（めんもくいっしん）」

<意味>

それまでの評価をくつがえすようなことをやってのけること。
世間の評判がよくなること。
また、外見や内容をガラリと新しく変えること。
「面目」は、その人に与えられる世間の高い評価。
「めんぼく」とも読む。

<使い方>

彼の今回の活躍は、まさに面目一新だ！

「彼は化けたよね・・・」
といっても、オバケになった訳ではありません。
この言葉の意味は、「急に素晴らしく変化する」こと。
こういう人を、これまで私も何回か、目撃したことがあります。

「化ける」ことは、偶然ではありません。
私は「化ける」ためには、以下の3つが必要だと思っています。

1. 強い反骨心

「自分は、どうせ評価が低いから・・・」
こんな気持ちの人は、「化ける」ことは不可能です。
「ちくしょ〜！ 今に見ている！ いつか見返してやるぞ！」
強い反骨心こそ「化ける」ためのエネルギーです。

2. ひたむきな努力

いくら、意欲があっても、実際に行動しなければ、何にもなりません。
ブツブツ愚痴を言うだけだったら、「面目一新」は夢のまた夢です。
しかし、ちょっと動いたからといって、すぐに結果が出るほど甘くないのが世の中。
他人の評価を覆すほどの結果を出すには、やはり、ひたむきな努力が必要です。

3. 成果に対する自信

自信を持つことは、人間の成長にとって最も大切なことです。
自分が努力したことが、成果につながれば、誰だって嬉しいし、自信もつきます。
成果は、ほんの小さなものでもOK。
努力⇒成果⇒自信⇒努力⇒成果⇒自信…
こうした、サイクルを続けられれば、人は短期間でも「大化け」します。
また、当然、周囲の賞賛も大切。
誉め言葉は、自信を醸成するための栄養剤です。

も：「両刃之剣（もろはのつるぎ）」

<意味>

役に立つものであっても、使い方によっては自分に危険をもたらす恐れがあるということ。
「両刃」は「諸刃」とも書き、両側に刃のついた剣。
両側に刃が付いているため、使い方を誤ると自分を傷つけることからきている。

<使い方>

科学技術の進歩は、人類にとって両刃の剣のようなものだ。

「物事を判断する時は、必ず、メリットとデメリット（リスク）の両面を考慮するように・・・」
私がコンサルタントになりたての頃、上司から口酸っぱく言われたことです。
これは、意思決定の基本ですが、結構、忘れてしまうことも多いのです。

例えば、新規販売店の開拓。
それまでゼロだった販売店から注文をもらえば、売上はその分プラスになります。
しかし、果たしてそれが「100%良いこと」と言えるのかどうか？
もし、その販売店が、当社の重要販売店のライバル会社だったとしたら？
二兎を追うことによって、結局、一兎も得ず・・・
そんなことになったら、元も子もありません。

あるいは、特別価格対応。
ある物件を受注するために、思い切った値段を提示したとします。
その物件は受注できても、他の物件に波及したらどうなるか？
「この前の特価を今回の物件にも適用して欲しい！」
「××事業所が出した特価を、我々の事業所には、何故、出してくれないのか！」
お客様としては、当然、そういう言い方をしてくるでしょう。

私は、意思決定は慎重に行うべきだと思っています。
しかし、「慎重過ぎる」ことも考えものです。
今のように変化が激しい時代は、決断の遅れが、チャンスを逃してしまうことにつながります。
また、石橋を叩きすぎると、渡る気にならなくなりますから。

できるだけ瞬時にメリットとデメリット（リスク）を考慮し、判断すること。
そして、リスクについては、事前にできるだけ回避する手段を講じること。
こうした基本姿勢が大切でしょう。

や：「夜郎自大（やろうじだい）」

<意味>

自分の力量を知らない者が、仲間うちでいばること。

ひとりよがりにもうぬぼれて、尊大に振舞うこと。

井の中の蛙、大海を知らず。

「野郎」は昔、中国の西南部にあった国で、尊大な外交で失敗したことが語源になっている。

<使い方>

彼の夜郎自大の振る舞いは目に余る。

「井底之蛙」「唯我独尊」など、うぬぼれや尊大さを戒める四字熟語は多いです。人間はもともと、自尊心が強いものなのです。

いきなりですが、コンサルタントには「嫌な奴」が多いです。まさに、「自尊心の塊」。

いつも「自分が正しい」と思い込んでいて、他人の言うことに耳を貸そうとしない・・・

お客様は、表面上は「ごもっとも！」と立ててくれますが、影では「バカじゃないの!」と思われることも多いです。

これは、普段、「先生」と呼ばれている人たちの職業病です。

政治家、弁護士、医者、学校の先生・・・

うぬぼれ者の割合は、明らかに他の職業よりも多いです。

怖いですね～

私も時々、「伊藤先生」なんて呼ばれますが、その都度「伊藤さんと呼んでください」とお願いしています。

ある会社で「さん付け運動」を実施しています。

上司に対して、「伊藤課長」なんて呼び方をしないで、「伊藤さんと呼ぼう!」という取組です。

なぜ、そのようなことをしているのか？

それは、「対等意識」を醸成するためです。

「社長」「部長」「課長」「所長」・・・

職位をつけて名前を呼ぶと、どうしても、「上下の意識」が生まれます。

そうすると、下の人は、ハッキリ物が言いにくくなるし、上の人は、「うぬぼれ」が生まれやすくなります。

そういうことを戒めるための仕掛けです。

職位とは、会社の中での役割です。

職位が高いということは、それだけ重い責任を負っているということです。

当然、高い判断力や意思決定能力が求められるでしょう。

しかし、それがそのまま、「偉い」とか「全てに優れている」ということにはつながりません。

一般社員の人でも、それぞれ優れた得意分野があるでしょう。

そういう人が、皆で、お互いの意見をぶつけ合って、会社をどんどん良くしていくこと。

そのような企業風土が理想です。

<次回に続く>